



患サポ通信

— ささえちゃん便り —

第 91 号



ささえちゃん



患者サポートセンター 新部長よりご挨拶



平素より、患者サポートセンターに御支援・御協力いただきまして、誠に有難うございます。

2021年10月1日より、患者サポートセンター部長を務めさせていただく門馬智之（もんま ともゆき）と申します。福島市出身で大学を卒業後、多くの県内の市中病院にて勤務させていただき、連携登録医の先生方にも大変お世話になっておりました。



2015年からは福島医大に戻り、外科診療に携わるとともに、附属病院医療情報部にて、総合医療情報システム（電子カルテなど）の管理、運営にも携わっておりました。これまでの他施設、患者さまとの接点の少ない部門から、新たに病院の窓口である患者サポートセンターを担当させていただくこととなりました。どうぞよろしくお願い致します。

患者サポートセンターは、患者さまの紹介窓口や、外来から始まる入退院支援、病床の適切な運営管理等を主な業務とし、前方支援から後方支援までをセンター内で情報共有し行っております。これからも、患者さまとご家族が治療、療養しながらも安心して生活できるよう、当院と地域の医療機関、福祉事業所がもつそれぞれの強みを生かせる連携を目指し励んでまいります。引き続きのご支援賜りますよう何卒よろしくお願い致します。



前任 鈴木部長より退任のご挨拶



日頃より、福島医大病院、及び、同・患者サポートセンターにご支援・ご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

やっとコロナ感染症患者も減り、これまでの日常に戻るのか、はたまた、第6波を迎えるのか、予断を許さない状況が続きますが、いずれにしても、患者サポートセンターの強化が地域の皆様にとってお役に立てるのではないかと考え、これまで当センターの部長は他部門との兼任でございましたが、10月1日付けで門馬智之先生を部長（専任）にお迎えし、パワーアップした体制で活動してまいります。私も、引き続き、担当副院長として微力ながら関わらせていただきます。引き続き、ご支援・ご協力の程、どうぞよろしくお願い致します。

副病院長 鈴木義行



機器導入のお知らせ



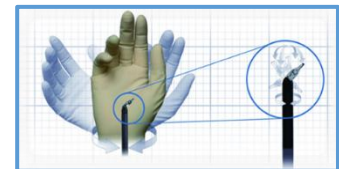
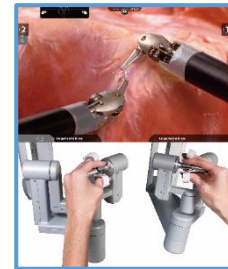
ロボット支援手術体制更なる充実 ～手術支援ロボット2台体制に～

福島医大では、2013年より前立腺がん摘出術をロボット支援手術で開始し、その後の保険適応拡大に合わせ、腎臓、縦隔、肺、食道、胃、直腸、子宮、膵臓などに適応疾患を拡大してまいりました。

当院では、内視鏡手術支援ロボットとして、米国 Intuitive Surgical 社製のダビンチ Si を使用しておりましたが、2021年10月に、同社の新型機種であるダビンチ Xi とダビンチ X の2台に、機器の更新を行っております。より高画質な3次元立体画像(3D-HD画像)を搭載、より柔軟、広範囲で繊細な鉗子の動きの実現により、手術の更なる正確性、安全性、低侵襲性の向上が期待されています。

【ダビンチ (daVinci) サージカルシステム】

ロボットを用いた手術=オートメーション手術という印象をもちますが、ダビンチは医師の手の動きを再現し、手術を支援するロボットであり、手術操作は医師が行います。



① Surgeon Console (サージョンコンソール)

医師が拡大された高解像度3次元立体画像を見ながら、両手で Patient Cart の鉗子を操作する機械です。

② Patient Cart (パシエントカート)

医師の手の動きを正確かつ繊細に再現して、4本のロボットアームを動かします。鉗子には関節があり、腹腔鏡下手術では不可能だった「手」のような動きが再現できます

③ Vision Cart (ビジョンカート)

Vision Cart のモニタで術野を共有し、他のスタッフが手術をサポートします。

*ダビンチによる手術の費用

ダビンチによるロボット支援手術は、2021年10月時点で、21術式が保険適応となっており、当院でも一部の手術を除き、保険適用にて手術を実施しております。

